

日本計画行政学会計画賞

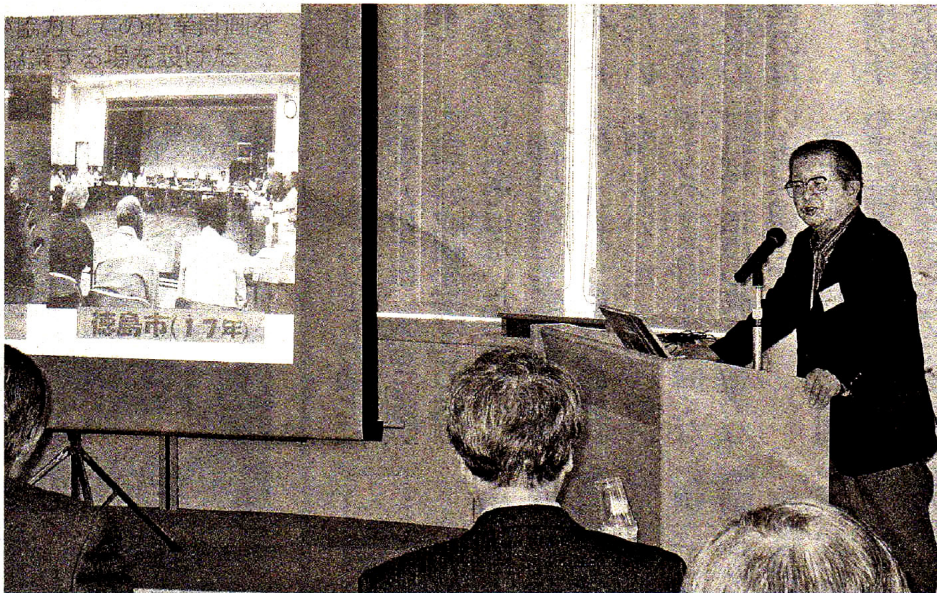
環境問題など新たな社会ニーズに応える革新的で先導的な活動を表彰する「日本計画行政学会計画賞」の審査会が26日、東京都内であり、徳島市のNPO法人・徳島共生塾一步会(新開善二理事長)の「四国癒(いや)しの道美化推進ネットワーク事業」が最優秀賞に選ばれた。

遍路道6年間の美化活動

「情熱感じた」と評価

一步会(徳島市)最優秀に

審査会は、10件の応募から予備審査を通過した8団体の代表らが、15分間の持ち時間で取り組み内容を発表。大学教授やマスコミ関係者ら10人が活動の社会的有効性などを審査した。



遍路道の美化活動を紹介する新開理事長
東京・渋谷の青山オーバルビル

一步会(徳島市)は新開理事長(73)が、6年間にわたって取り組んできた遍路道の美化活動を紹介。「活動は地域住民や行政の力の結集」と強調しながら、地域と行政をつなぐNPO法人の役割の重要性を訴えた。

審査の結果、「活動にはビジョン(展望)、パッション(情熱)、ミッション(使命)が必要だが、一步会には特にパッションを強く感じた」と(同学会長・原科幸彦東工大教授)との理由で、最優秀になった。

新開理事長は「全国のステージで認められてうれしい。遍路道を守る意識が広がれば」と話した。

審査会は13回目、四国からの出場は一步会が初めて。新開理事長は9

月に札幌市で開く学会の全国大会で活動を発表する。学会は大学教授ら約1300人で構成している。

一步会のほか、青梅信

用金庫と岡山市が優秀賞、上越市創造行政研究所が特別賞を受賞した。